

誤りは「表示」ではなかった！ごみ処理量の水増し？

「資源化」前提の剪定枝を焼却処分

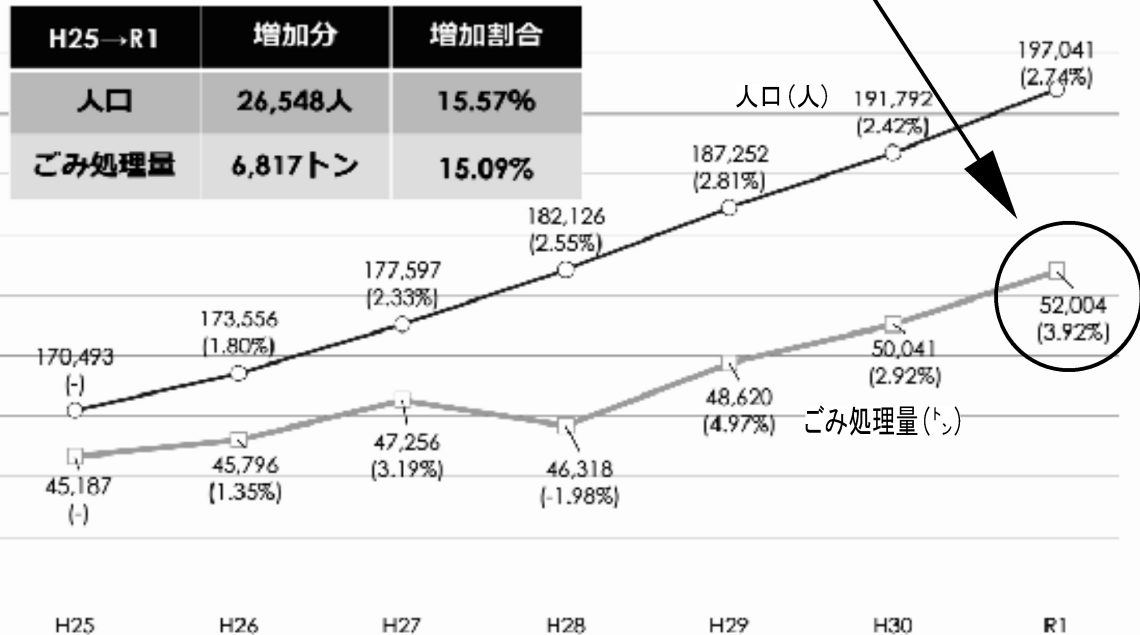
自治会回覧用に市が配布した指定ごみ袋の表示訂正

指定ごみ袋のデザインが一部変わります。
 「指定ごみ袋本体の容量表示」については、容量表示のとおりとはなっていませんでした。
 また、流山市指定ごみ袋の包装用外袋に記載されている「商品の品質表示」については、表示内容が家庭用品品質表示法に基づく表示となっておりませんでした。
 市民の皆様には、ご迷惑をお掛けしましたこととお詫び申し上げます。
 改訂後の商品については、製造日数の都合上、令和5年4月から随時販売を開始する予定です。
 現在使用している家庭用ごみ袋については、品質及び機能に問題はございませんので、引き続きご利用いただけます。

令和5年4月ごろから、指定ごみ袋のサイズ表記を変更します。なお、現在販売している指定ごみ袋も引き続きご利用いただけます。

種類	現在のサイズ表記	新しいサイズ表記
指定ごみ袋	「45ℓ」 「30ℓ」	「特大(45ℓ相当)」 「大(30ℓ相当)」

市の人口とごみ処理量の推移



令和3年1月24日(東部公民館)、30日(おたかの森センター)、31日(南流山センター・北部公民館)、市内4ヶ所で開催された指定ごみ袋導入に向けた市民説明で使用された資料より

「R1年には含まれてくる」市長認める

3月13日、予算委員会総括質疑が行われ、物価等高騰対策の施策として、水道料金引き下げや指定ごみ袋の使用緩和をおだぎり市議は提案しました。

おだぎり市議は、予算審査中、「資源化」を前提にした剪定枝回収(年3千ト)のうち、2千ト(7割弱)が焼却処分(R1年10月)とされていることを確認。市長に対し、ごみ処理量の推移に、R1年分だけ、剪定枝焼却処理量が

含まれている疑惑を指摘しました。井崎市長は「R1年には含まれている」と認めました。

市民からは「ずっと疑惑を持ってきたが、水増しじゃないの?」、「庭の落ち葉や落ち葉処理に(指定ごみ袋)6枚以上使う。市販(90ℓ)の袋なら、2枚あれば足りる。指定袋製造の市外事業者の利益より、市民の負担軽減を優先して欲しい」と話しています。

迅速に

物価高騰対策

国・県・市が役割発揮を

相次ぐ物価高、電気代等の高騰に、くらしも営業も悲鳴が聞かれています。一方、予算委員会総括質疑に出席した4会派中、市長に対策を求めたのは日本共産党だけ。代表しておだぎりの市議が追求しました。

「電気・ガス代が、去年から5千円も増えた。暮らしていけない」

日本共産党に、連日、暮らしや していけない」との悲痛な訴えで営業の深刻な実態が寄せられています。

おだぎり市議に届いた手紙には、紙の内容を伝えるとともに、介護・去年8月から、電気・ガス代が月1万円を超える状況に加え、寒さが増した今年1月、「去年1月と比較し、5,306円増え、暮らし

対策は国の責任…市予算9割カット

財源はある

おだぎり市議の質疑に、井崎市長も「物価高で大変なのは全国的なもの」「全産業が大変。農業も大変」と認めながら、R4年度物価等高騰対策経費7億7千万円のほとんどが年度末で終了。R5年新年度予算に計上したのは、わずか5771万円と、9割カットです。市民一人当たりではたった2800円。これでは窮状を訴えながらも、住民税を納税している市民は救われません。

年度末の予算の使い残り（不用額）は20年度30億3千万円、21年度445億3千万円にも。また人口増を背景に市税収入は23年度342億7千万円に。20年間で、152億円の増加分を活かせば財源はあります。

さらに、「白みりんミュージアム（整備費4億4千万円）」「等不
要不急事業の凍結など、優先順位
を変えても、財源は確保で
きます。

また国の責任にすり替えながら、
政府与党の取り組みを批判してい
るわけでもありません。



流山市議会議員

おだぎり
たかし